

年頭のご挨拶

新年交歓会の挨拶より

会長 福島秀策

明けましてお目出とうございます。本日ここに会員の皆様と共に新しい年を迎えることができましたことを心よりお慶び申し上げます。

昨年、同窓会をお引き受けした第一年目でありましたが、会員各位の御支援により、大過なく過すことができました。厚く御礼申し上げます。

とくに、昨年末の学術会議会員選挙に立候補されました杉山学長が見事当選されましたことは、誠に喜ばしいことであり、同窓会を代表して心よりお喜び申し上げます。

さて、今年、一、明年に行なわれる予定の東京歯科大学創立八十周年並びに血兩守之助先生誕生百年の記念行事や記念事業の準備の年であります。これにつきましては、既に委員会に於て着々構想が練られ、具体案が作成されつつあります。決定次第逐次会報紙上で御報告致しますが、これを成功させるためには、同窓各位の絶大なご協力が必要であります。よろしくお願い致します。

二、昨年の総会で御承認を得ました同窓会の会則及び諸規程を時代に則したものに改善したいと思っております。近日、この問題に関する委員会を発足させたいと考えています。

三、その他過日の評議員、支部長会並びに総会における各位の御意見を可能なものから逐次実施して行きたい所存であります。

四、さらに、講演会、日曜セミナー、夏期講習会等も従来通り行いますので多数の会員の御参加を望みます。

いずれにしても、基本方針として、何事によらず、事に当るに際しては、歯科界全般の正しい発展のため、母校の輝しい伝統精神を基盤として行動したいと思っております。

目先の利害得失にとらわれることなく、今後ますます連帯観念の昂揚に努力し、誤りなきを期したいと思っております。

今後一層の御支援をお願い致すと同時に、会員各位の御愛の程を切にお祈り申し上げます。

お知らせ

二月講演会

日時 二月二十三日(日)午後一時~四時 場所 母校第四教室
『同窓会になにを望むか』
講演会のために、直接会員からの御意見や御希望、提案などをおききして参考にすることとしております。今回も卒直な御発言を期待しております

● 『アンデスの山とインカ、インディオ』
東京歯科大学山岳会ヘルパーアンデス遠征隊 護辺富士夫教授 依田雄弘氏
本会報で御承知のアンデス遠征隊の経験した貴重な体験を美しいカラースライドより披露してもらおう事になりました。初登攀の感激と、偉大なインカ文化、インディオの生活等は興味深いものと思われま

● 『歯内(保存)療法でどの程度までの根端病巣は癒しうるか』
講師 長谷川正康助教授
日常の臨床において、抜歯か、保存かの決定にはかなり悩まされる事が多いものである。根管治療によって、どこまで癒しうるか? どのように治療して行くか等を、X線写真により解説していただきます。そして、治療を成功させるための要点は何かにも触れられる予定です。御期待下さい。

● 『東京歯科大学学会(例会)』
日時 二月二十二日(土)午後一時より 場所 母校教室
卒業証書授与式
東京歯科大学 三月二十五日(火)午後一時三十分より
東京歯科大学歯科衛生士学校 三月二十七日(木)午後一時より

● 『日曜セミナー』年間スケジュールは次頁をごらん下さい。
● 『歯科医療管理はなぜ必要か』
四月二十日(第三日曜日)午前七時~午後四時 織家 勝先生

● 『夏期講習会』
今年も例年通り夏期講習会を開催する予定です。詳細は追って発表します。
新らしい同窓会々員名簿は一部四百円です。
すぐお申し込み下さい。

1

新年交歓会開かる

元旦十一時より母校第一教室で

今年の元旦の東京は雲一つない晴天で珍らしくスモッグもなく絶好の正月日よりであった。例年と殆んど同じ様な顔ぶれではあるが約百名の同窓が参集し、賑かに開催された。

定刻、松宮教授の司会で開会。杉山学長、福島同窓会長の年頭のご挨拶の後、榎本同窓会名誉会頭の発声で乾杯、加藤教授の謡曲「鶴亀」で新春を寿いだ。この間十二月末欧米視察の旅から帰国されたばかりの高橋教授のご挨拶があり、十二時目出たく散会した。



杉山学長のご挨拶要旨
新年をお慶びすると同時に日頃の同窓各位の御支援に感謝します。

去年度は 一、教室の改造ができた(写真参照) 二、学術会議会員に当選することができた。いずれも同窓会各位の御協力の賜で感謝にたえない。三、海外に多く教員が出張した。高添助教(米)北村、三崎教授(台湾)今西助教(欧)高安講師(南米)堤助教(欧)高橋(庄)教授(欧米)野村講師(欧米)芳賀教授(欧米)松宮教授(南米)大井、関根教授(韓国)高橋(重)助教(欧米)大塚講師(欧米)渡辺教授(南米)であった。

今年度は、一、コポルト60を市川病院に設置する。二、解剖別館横に図書室、研究室等を収容する建築をする。これにより診療、研究態勢が一層充実するであろう。三、海外には坂田教授、関根(弘)教授、鈴木教授、吉木講師を派遣するが、出張する教員は多分増加するであろう。海外に出て直接見聞を広め、研究に、教育に、診療に生かされる事を期待している。

◎日曜セミナー

好評の日曜セミナーを今年も次のようなスケジュールで開催します。奮って御参加下さい!!

月 日	課 題	講 師
四月二十日	歯科医療管理はなぜ必要か	織家 勝 先生
五月十八日	基礎と臨床よりみた上手な麻酔法	上条雅彦 教授 中久喜喬 教授
六月二十九日	矯正患者の治療法とその実技	山本義茂 教授
八月十七日	口腔に現われる悪性腫瘍の診断と治療	長尾喜景 教授 三崎鈿郎 教授
九月二十一日	ポーセレン・インレートのかんどころ	石川達也 教授
十月十九日	クラウン・ブリッジによる前歯部の修復	羽賀通夫 教授
十一月二十三日	各種歯髄処置後における不快症状とその対策	関根永滋 教授 浅井康弘 助教
十二月十四日	歯科医に必要な隣接医学	市川病院 各科 教授

- 一、受講料 各課題につき一名五千円(当日持参のこと)
- 一、課題によっては、受講料の外に材料費の実費をいただくことがあります
- 一、申込締切 開催日の一週間前(但し、その以前に定員になり次第締切ります)
- 一、時 間 午前十時より午後四時まで
- 一、定 員 各科二十名
- 一、申 込 先 東京歯科大学同窓会事業部

東京歯科大学創立八十周年記念並びに血脇守之助先生誕生百年記念事業企画委員会の経過

記念行事は明年秋に開催の意向

本会報第一二四号(昭和43・8・15)に発表されたとおり本企画委員会には、本委員会で審議すべき企画原案を検討するために小委員会を設けることとなり、小委員長以下六名の小委員が指名され、爾来、杉山小委員長を中心として会合を重ね、企画原案を一応作成し、旧臘十二月十四日の第二回企画委員会に提出、審議が行なわれた。しかし、さらに、細目について

て小委員会で審議を継続することとなった。

なお、記念事業としては、1記念行事 2記念事業とに分け、記念行事は、昭和四十年秋に挙行したい意向であるというが、まだ全体的に審議中であるので、発表の段階ではなく具体的な内容が、逐次発表されるものと期待している。

母校より

市川病院にコバルト60

深部治療装置を設置

本学は本年度研究設備整備費補助金により特殊研究設備として、セラトロンコバルト60深部治療装置の設置を申請中であつたが、43年10月16日付でその許可が決定した。44年3月カナダから到着予定の本装置は、市川病院に設置する

海外往来

○杉山学長、松井教授台湾へ

杉山学長と松井教授は台中で行なわれた台湾省第8回歯科医学会に出席のため、また各地の同窓と交歓するために1月2日羽田を出発。杉山学長は6日、松井教授は12日、元気に帰国された。

吉木講師を国際学会に派遣

本学では助教、講師の人で海外の学会において研究発表を希望する人があれば年間一名に限り、大学から派遣するようになり、43年度は第一回派遣者として理工学教室の高橋重雄助教をブルガリアの第56回FDI学会に派遣したが、44年度は病理学教室の吉木周作講師を派遣することになった。吉木講師はスエーデンのKungälvで8月28日、29日に開催される第8回 The Artifact Clubの国際シンポジウムに出席する。

社会歯科学研究室の設置

昭和43年12月10日の教授会において、本学に社会歯科学研究室を設置することが確認された。この研究室の主任は高木圭三郎教授である。今後、この方面における活躍が期待される。

本部短信

鹿島俊雄後援会幹事長に後藤芳郎氏が就任

前幹事長高木昂氏の後任をかねて選考中であつたが、このほど、同窓会の後藤理事が就任することになった。

11月28日 会報編集部神奈川県支部へ取材出張 渡辺、高橋理事

11月30日 東遊会 福島会長

12月1日 役員会

12月6日 四十三年度版名簿発送

12月10日 日本橋支部総会福島会長

12月11日 六歯科大学連合同窓会 井上、長谷川両副会長

12月18日 鹿島参議院議員を囲む

12月19日 栃木県支部一日入学40名

12月22日 日曜セミナー X線

12月26日 126号会報発送

1月1日 新年交歓会

1月10日 千代田支部新年会 福島会長

1月13日 編集会

1月13日 学術委員会

1月16日 定例役員会

1月18日 神奈川県支部新年会 福島会長

1月19日 愛知県支部連合新年会 福島会長

1月22日 芝支部新年会 長谷川副会長

1月23日 編集会

1月25日 京北同窓会井上副会長

1月26日 日曜セミナー

◇ 火災罹災者

埼玉県 16田中 進会員

尾 張 11穂積敏夫会員

1月12日診療室類焼

一日も早くご復興をお祈りいたします。

宮下一郎先生お見舞い報告

宮下一郎先生の病氣お見舞い金を募っていたが一月一六日現在九五、七〇〇円集まった。井上副会長が持参し高崎の先生宅にお見舞い申し上げた。

◇ 逝去会員

名 早野栄蔵 〇・〇・六米 国

推 平山卯五郎 〇・三・四 熊本県

医 国正平 〇・二・九 兵庫県

推 高田耕造 〇・二・〇 埼玉県

推 池野幸六 〇・三・一 岡山県

推 池畑三郎 〇・三・一 札幌

推 高橋常保 〇・三・四 空知

推 岡山 章 〇・一・四 静岡県

大 佐藤平八 〇・一・五 福島県

推 牛久保長一 〇・一・八 南

医 北島主計 〇・三・三 南 信

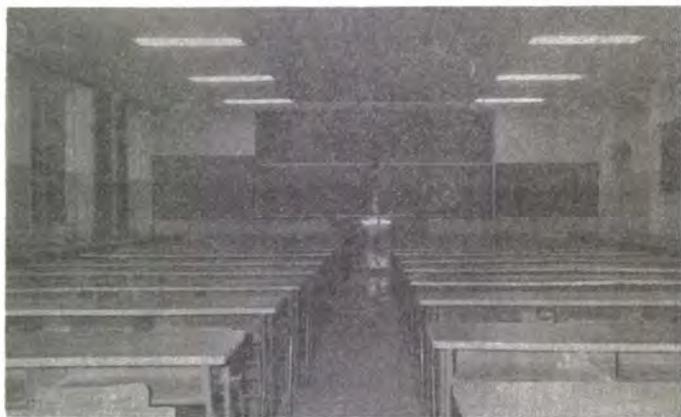
謹んで右の方々のご冥福をお祈りいたします。

母校の現況

その一 講義室

東大をはじめ各地の大学の学園紛争が新聞紙上ににぎわしている。昨今、同窓各位には母校の現況について、一層の関心を深められている。そこで母校に設備の改善の

実際を順次写真で紹介することを企画した。専門課程の講義室は一昨年より改装を始め現在ではいずれも冷暖房装置が備えられた。講義は無線マイクを通して前後左右六ヶ所のスピーカーからの座席でも十分に聞くことができる。またスライド映写の場合の暗幕は黒板下のスイッチで開閉でき、照明もリモートコントロールができるようになってくる。さらに第二、三、四の講義室はゆるやかな傾斜がつけられ、黒板、スライドなど見易くなっている。各種学会会場に使用した時には全国各大学の先生方にこの設備は絶賛された。(次回は実習室)



第 1 講義室



第 2 講義室



第 3 講義室

4つの色調で広範囲な用途 カラプロテクトセメント

歯髄保護と同時に永久合着裏装に好適
非膜度が薄く、前装歯に賞用されます。

京東・渋谷 ネオ製薬工業株式会社

◆ 包 装 ◆

ライトイエロー.....	30g	¥	280
ジンジバルブラウン...	30g	¥	280
ライトグレー.....	30g	¥	280
ゴールドンブラウン...	30g	¥	280
液.....	50g	¥	200
1セット.....		¥	1,200

抗生物質・I—新しいテトラサイクリン

佐々木 次郎

これから、しばらくこの紙面を貸りて新しい抗生物質、抗炎症剤、鎮痛剤の使い方とか、口内炎の薬物療法、歯科とビタミンなどについて、易しい解説を試みたいと思います。

クロラムフェニコールが造血臓器に対する障害のために、一次選択剤として使用される頻度が減って来ました。これに代って多用されるようになったのが、新しいテトラサイクリン系の抗生物質です。今迄に市販されたテトラサイクリンには、次のようなものがあります。

	略 称	商品名の例
クロールテトラサイクリン	CTC	オーレオマイシン
オキシテトラサイクリン	OTC	テラマイシン
テトラサイクリン	TC	アクロマイシン
デメチルクロールテトラサイクリン	DMCT	レダマイシン
メチレンリジン・テトラサイクリン	ML-TC	テトラリザール
メタサイクリン	MOTC	ロンドマイシン

これらのうち、CTC (オーレオマイシン) はすでに製造が中止されて、他の5剤が現在使用されています。OTC (テラマイシン) とTC (アクロマイシン) は、御承知の通り1日の使用量が1,500mg内外で、6時間毎に内服するのを通例とします。これに対してDMCT (レダマイシン)、ML-TC (テトラリザール)、MOTC (ロンドマイシン) の3剤は、次のような特徴を持っています。

1. 1日量は600mg、この3剤はいずれも1カプセルが150mgですから、1日に4カプセルの内服で良いこととなります。
2. 持続時間が長いので、1日2回の内服で済みます。従って、朝夕に2カプセルずつ内服すれば良いわけです。

これらの3剤は、DMCT (レダマイシン) はレダリー・武田から、ML-TC (テトラリザール) は藤沢薬品から、MOTC (ロンドマイシン) は台糖ファイザーから市販されて、いずれも健保にも適用されています。私達も、病院の臨床で多用していますが使い易く、使い慣れるとやめられません。患者さんにとっても、6時間毎の

内服では早朝や深夜にわざわざ内服しなくてはならず、患者さんのなかには勝手に1回とばしたりする人もあるようで、これでは予期した効果があがりません。抗生物質を口から服んだ場合の副作用は、ほとんどが「胸やけ」と「嘔き気」です。こうした副作用は、空腹時に抗生物質を服用すると特に多くなります。新しいテトラサイクリンでは、1日量が少ないことと、朝夕の食後に服用すれば済むことから、このような「胸やけ」や「嘔き気」も、今迄のテトラサイクリンに較べて少ないようです。それでもなお、胃の具合が悪くなったり、悪くなりそうだという心配があるときには、次のような健胃剤や消化酵素などを併用します。

1. 「胸やけ」に対しては、健胃剤のSM散・三共を、用います。SM散は1.3g づつの袋に入っており毎食後に1包ずつ服用させます。
2. 「嘔き気」に対しては、メトクロプラマイド——商品名プリンペラン・藤沢を毎食後1錠ずつ服用させます。
3. 「腸の鼓動」などに対しては、消化酵素のタカブレックス・三共などを、やはり毎食後1錠ずつ内服させます。

このように新しいテトラサイクリンは、量と回数が少なくても、臨床での使用成績は良好で、すでに歯科学報にも報告しましたが、いずれも80%以上の有効率を得ております。将来は、さらに持続時間の長いテトラサイクリン系抗生物質が市販されるようになると思います。今回は紹介しませんでした。最も新しいテトラサイクリンのドキシサイクリン (DOTC) の実験を、最近私達も行ないました。このDOTCは1カプセル100mgのものを、1日1回1カプセル内服するだけで、予期した効果を得ることが出来ます。今年年中には市販されるようになるでしょう。このように抗生物質の進歩には限りがありませんから、必要と思われる時にはどんどん使用なさって下さい。

次回には、現在市販されている抗生物質のうちで最も高い感受性を有しているセファロリジンと、臨床で使用し易い複合抗生物質を中心にして説明する予定です。

(口腔外科学教室)

支部のうごき

近畿連合同窓会

本年度の近畿連合同窓会は、兵庫支部の当番で、勤労感謝祭の十一月二十三日、会場を神戸ニューボートホテルに挙行された。当日深秋快晴の十一時半神戸港めぐりに始まった。壮快なる航行、夏を想わせた。

午後一時、ホテル前広場で記念撮影後総会は、金子隆先生の開会の辞で開かれ、物故会員への黙悼、沢田支部長、福島会長、榎本名誉会頭、杉山学長の挨拶の後、協議事項に入った。来年度の連合同窓会は、滋賀県で催される事に決定する。元神戸美術館長、荒尾祝成氏の神戸港についての講演があり、甚だ有益で、興味深く諳聴。

林幹雄先生の辞で閉会。懇親会は本多宣章先生の司会で開始、来賓奥野兵庫県歯科医師会長の挨拶は、東歯同窓会に対してのほげましの言葉であった。一同井上真同窓会副会長の首頭で乾盃する。

宴酣にして松村正澄先生の師匠荒尾親成氏の艶話に一同爆笑。和やかな裡に、



学校、同窓会の隆盛を賀し万才を三唱、中西次生先生の辞で午後四時閉会。

参会者は一〇六名であった。

(宝塚 石田(鏡)記)

静岡県支部

清水市同窓母校一日入会

についての報告

本支部に於ては昨年に引き続き第二回の試みとして四十三年十一月三十一日(土曜日)母校に一日入学をさせて頂きましたので御報告させて頂きます。今回も会員の河村三省が主となり、朝波篤、児島久勝が母校との連絡に当りました。

本年は時期的に会員多忙の折だったので参加者が二十名に減少した事を非常に残念に思います。(昨年は二十五名でした)

当日は十時少々前に母校着、学校の白衣を借りして身仕度をととのえ、諸先生方よりの挨拶、御注意、予定等の説明の後膿漏の診療室に入りました。

早速木村教授の診療の見学から始まりました。教授は例の通り懇切丁寧なる調子で独特な治療方針の説明から咬合関係の調整を行って行かれました。他のチェアーでは医局の若い先生方が、目のさめるよらかな、鮮やかな手際のよさで、エクトミーを行って見せて下さいました。又一人のフルアーチブリ

ッヂの患者については特に深く掘り下げての説明を聞く事が出来ました。

午前中の見学が終り、正午諸先生方と、親しく、会食する事が出来ました。その折も色々楽しい話題に花が咲きました。

しばらく休息の後、午後一時より、階段教室に於て講義が始まりました。若い先生方から、エクトミーの術式、バック剤の使用法、歯頭部智覚過敏の療法等、新しい薬剤の使用法を交えながらの講義に、引き込まれて行きました。木村教授は我々の他にも研究会に出席して居られるとの事で非常に多忙な時間を割かれて、歯槽膿漏特にエクトミーについての総括的な講義をして下さいました。

そして四時頃一日の課程を終りました。一日を終り特に感じた所と申しますと、木村教授は勿論ですが、特に医局の若い先生方は非常に熱心に大活躍をされて居られた事でした。そして東歯の研究陣の層の厚さを今さらのよらにたのもしく感じました。

たしか約二ヶ月位前でしたが、上条教授が清水で講演された時にも力説されましたが、患者自身の口が最良の咬合機であるとの考え方を木村教授もさかんに話して居られたようでした。そして一例として拝見したブリッチの患者につ

いても、咬合関係のむずかしさをつくづくと感じました。

又、現在各大学に於ては学生運動が盛んで日々のニュースを賑わして居りますので父兄の方々も心配されて居られる事と思ひますが、我々が母校を見学し、学生の様子を、ほんのちよつとですが、見た限りにおいては、東歯の学生は健在であり、全然心配ないと思ひました。

あれこれと、とりとめの無い事を書き連ねましたが、最後に、第一回目にも増して、大成功の内に一日入学を終らせて頂いた事を会員一同心から感謝いたします。これも偏に母校の関係者の皆様方の非常な御厚意によるものであり、又何回も申し上げますが医局の若い先生方の非常に熱心な又用意万端手抜かりの無い計画に依るものと思ひます。

これで報告を終りますが、続いて第三回目の計画を立てて居りますので、又御報告出来る事と存じます。

田村領司郎 記

学校支部

昭和四十三年度同窓会学校支部総会は、旧臘十五日(日)熱海市来の宮、西熱海ホテルで開催されました。

当日午前九時、福島同窓会長、

北村学監をはじめとして多数の教授、教職員、および数名の家族を交えた支部会員総勢八十三名は、水道橋大病院前を二台の貨切りバスに分乗して一路熱海へと出発した。前日までは不連続線停滯のため小雨混りの寒い気候であったのが、この日はすっかり朝から晴れ上り絶好のドライブ日和となり、会員一同の親睦をねらったミカン狩りを兼ねてのこの学外遠出総会は全く天の恵を得て、ますます活気だっていた。朝食に支給されたオレンジジュースとサンドウィッチをほうばり、ペテランガイドさんの観光案内放送に耳を傾けながら、車窓に映る引き締まった感のする初冬の海と山を眺めているうちに、車は第三京浜国道、湘南遊歩道路を極めてスムーズにつ走り、真鶴街道、熱海海岸有料道路を経て正午過ぎ予定よりやや遅れて総会開場であった。直ちに支関ホール前で、現地集合会員を含めて記念写真撮影を行い、その後引続いて三階宴会場で総会議事を行った。本年度から新たに就任した山本義茂

支部長は、川島副支部長（市病）司会のもとに甚だ簡明にして意のつくされた挨拶を述べられ総会開幕は切って落された。続いて福島秀策同窓会長のご挨拶、ことに本学において多年願望していた学術会議会員の一人として第七部歯学へ杉山不二学長が見事当選の栄冠をかちなられた慶事は同窓会と大輪の如く緊密に、かつまた美しい調和を保持するよう祈念してやまない、と云う慶びのうちに新たな決意のうかがわれるものでもあり、万雷の拍手にわきかえった。引き続き北村学監の祝辞が終るや、中久喜教授が議長に選出され、庶務、会計の両報告が佐藤副支部長、見明幹事からそれぞれ報告され、何れも満場異議なく承認された。なお、これに続いて山本支部長から各支部で同窓会支部旗制定の案が本部において決定され、やがて学校支部にも支部旗が設置されること、来年度からは会計監事を新設し、これを東歯大病院長および市川病院長のお二人にお引き受けいただきたい旨の提案があり、満場一致可決された。以上の報告事項のみで議事は無事終了、総会を閉じ直ちに懇親会に移行する旨の司会者の詞に従い、昼食懇親の宴が開幕された。関根



病院長の祝辞、松宮教授の乾杯音頭により、用意されたビールで祝杯があげられた。今回は杉山学長の当選祝賀のおめでたいムードも加味されて、真昼間とはいえず酔うほどに祝杯はさらに重ねられ、北村学監のさん「さ時雨」を皮切り

に祝歌多発、一めでたし、めでたし」で予定時刻の過ぎるのも気づかず、盛宴を極めた。

午後三時、再びバスに乗りし一行は、今回の総会懇親会の第二会場とも云うべき湯河原深沢ミカン園に、ミカン狩りを楽しむべく、あわただしさのうちに喜びを抱いて来の宮を出発した。約三十分後には駿河湾の望める小高い丘の斜面に枝もたわわと熟れに、熟れたミカン園に到着、童心にかえって和気藹々うちに、もぎとる指の間から、ほとばしる新鮮なミカンの汁に顔をぬらし、ローパイにはうばって目をみはる人々の満足した顔はお互に当日の思い出となる画像を呈していた。ここ

海外の同窓より (その一)

「イギリス」

佐藤 征 紀君

昭和四十三年卒

謹んで新春のお喜びを申し上げます。さて、私、昨年卒業来、一人で

ロンドン イーストマン・デンタル、ホスピタルロンドン大学のポストグラジュエイト・コース（補綴）で学んでおりますが、毎回わざわざロンドンまで同窓会より御送付下さる同窓会々報を誠に有難く、感謝しております。懐しい母

で約一時間、お土産に枝付きミカンを買ってこんだり、袋一杯につめてりして再びバスに帰り、しばらくはミカン狩りの自慢話に花をさかせているうちに車は東名高速道に入り、帰途に向った。酒にミカンに適度に酔うにつれ、車中のマイクは休む暇なく賑かに楽しく過すうち、午後六時半、再び水道橋に全員元気に帰学した。今回の学外総会と懇親会は一体何を会員諸君と支部会にもたらしたのであろうか、新たな明日への活躍の為にエネルギーと、確固たる母校愛にもえた団結力とを与えたに違いないと確信したい。

東歯同窓会学校支部万才!!

校の色々な動きが手にとれる様で、時々寂しく思う気持ちも和む思いがして、この上なく愛読しております。あるいは、一生イギリスで過ごす事になるかも知れませんが、今後とも、よろしく御送付下さる事を、改めてお願い申し上げます。

(中略)

これは私個人の希望ですが、会報に最近の本校の論文のダイジェスト等、あるいは紹介の形で掲載下されば、ますます充実したものになると思っております。御一考下さい。(後略)

一同窓の死を悼む

福 島 秀 策

正月四日伊東に間借りをしている所へ出向からとして一寸学校へよつたら間借り先きの主人公とも云うべき岡山章君の事故死を知らせて来た。近頃ないショックであった。取りあえず事故発生地の地に行くことに予定を変更して名古屋に直行し直ちに彼の収容先名古屋市立医科大学病院に見舞つたのであるが、あまりの急変に涙も出ない。三日にトラックにぶつけられ一晩苦しんで四日朝なくなつたのであった。彼が名古屋へ行つたのは旧臘名古屋で亡くなられた令弟の法事に行つてそのついでに収容された病院に入院中の旧知を見舞いにいった帰りでしかも病院を出た所でブツケられたとのことであった。彼はかねがね「俺が死んだら遺体は学校に寄附するから解剖の教材として使つて呉れ」と云つていたのであった。

名古屋行の私の懐中には彼の家族の署名した昭和三十四年三月十一日附の解剖承諾書が秘められていたのである。話ささかのぼるが丁度私が東歯大に二度の勤をするために出て来た翌々年に記されたもので今からザット十年前のことになる。

クラスでも一風変わった存在であつた彼はある時「オ前も学長になつて直接学校のことに働くことになつてこんなうれいことはない。所でおれも何か母校のためになることはないかと考へたが……俺が死んだら遺体を学校に寄附して解剖の材料になりたいと思うがドオカ」と相談を持ちかけられたのであつた。その語氣に真摯なものを感じたので解剖室教室の上條主任教授とも相談して家族の承認書にまで発展し、それから十年その書類は学校大金庫の中に保管されていたのである。

病院の霊安室では近親知己の集りの下に密葬が行われているところであつた。遺体こん後の処置については一

つに母校東歯大の指示を待つていた処であつた。収容している病院としては司法解剖の必要もなく診断は骨盤骨折並に両下肢の骨折衝激による内部臓器の故障等々で死因も明白である關係で強いて病院での解剖を主張する理由はなかつたのである。結局故人の意志を生ずることとして学校へ引取ることにしたのであつたがしかし事故の土地から直ちに学校の解剖台の上に移すことはいかにも忍びがたいので東京までの運搬取り極めを伊東に変更して四日夜七時出発五日午前一時半無事に伊東の自宅に安置したのであつた。五日通夜六日葬儀もキリスト教で行われ多数の知己友人の参列の下に極めて盛大にとり行われ学校からは学長代理として北村副学長、若月助教北林庶務主任の列席を得学長からの弔詞も捧げられた。まことに故人の徳を偲ぶにふさわしい盛儀であつた。

定刻廻は学校からの迎えの車に移され我々後を護つて一路東京に向つたのであつた学校には同窓会の井上、長谷川両副会長が待ち受けられ、靈前に焼香、故人の冥福を祈つたのであつた。

彼は齡七十七才、飄々たる人柄は彼に接する人々の心をとらえずにおかない親しみやすい性格の持ち主であつた。老後の計画として自分の敷地内に温泉付きのアパートを建てその一室を母校の教職員憩いの場として低廉な費用で提供されていたことも彼の奉仕精神の一つの現われであつたというよう。

大正五年に当時の東京歯科医学専門学校を卒業し直ちにビルマのラングーンに出かけ、かの地で歯科を開業して成功したのであつた。この間昭和十三年に引上げるまでの間にあらゆる角度から物心両面の母校に對する援助は並々ならぬものがあったことは当時血脇校長から岡山君宛に出された数々の礼状を見てもわかるのである。今回の遺体寄附の一件も単なる思ひつきから出たことではないことを彼の生涯を通じての行動から見てもわかると思

う。

彼の実父は芦原甫といつて乃木將軍の副官を永く勤めた人であつた。かの西南の役に戦利あらず、しかも身に重

傷を負ひ倒れた乃木少佐をかついで附近の農家に運び力を尽して看護につとめ遂に少佐の命をとりとめたといふこともあつて、爾來乃木少佐は自身の累進と共に芦原氏を引立てたときいている。岡山の奉仕精神はかくの如き親譲りのものであつたことも考えられる。この精神はやがて伊東のロータリアンとしても皆から親まれていたのではなからうか。私はまことにさびしい。

かなしみに言葉もなしといえる人の
まことの思い今ぞ身にしむ

台湾の同窓会に出席して

同窓会理事 佐藤 貞 勝

一月二日台湾の台中市において第七回目の東京歯科台湾同窓会が開かれ母校から杉山学長、松井教授のお二人、同窓会より私が出席いたしました。当地の会員は三十名が出席されまことに盛大なものであります。当地の同窓会は四十九名おりますが陳錫鈴先生が亡くなられて、哀惜に堪えない次第であります。その他の会員はそれぞれ大いに發展しておられますことを御報告いたしておきます。

先づ杉山学長が大学の現状を詳しくお話になり、ますます發展しており、台湾の同窓会が母校で研究を希望される場合などの諸事の事柄を詳細に述べられ、できる限りの善処をすと結ばれ、ついで松井教授があくまでも勉強の必要性を話された次第であります。私が同窓会長のメッセージと会報、会員名簿等を持参し、会長の言葉の中でアジアは一つであり、歯科医学に固執はなく、まじめで最も近い距離の位置にある以上台湾という意識を打破し、今後一層緊密にその連帯感を高めなければならぬとの会長の言葉を伝え大いに共感をえた次第であります。

台湾の同窓会は母校は東京歯科以外には絶対に無いんだと叫び、熱烈なる母校愛に燃え、しかも母校の誇を我が誇として、常に台湾における同業者のリーダーシップをとつていくことを目の辺りに見ることができ、まことに力強く感じ次第である。

さに台湾同窓の願ひは卒直に申して、母校に子弟を留學をさせたい、同窓の近況を知りたい、それには会報、名簿その他の印刷物が欲しいといふことでありました。特に一同が声を大にしてゐることは、二十年過ぎれば、

クラス会だより

七星会

昭和十一年卒

渋谷祐弘君を悼う。

去る十二月六日突然渋谷祐弘君死の通知を頂き、驚いた次第です。愛知県在住の七星会員で卒業三十周年を伊勢志摩巡りを挙行了した時三十年振りに集った諸兄が多数あったが君も、その一人でした。が頗る元氣だったので、まさかと疑った程でした。

君は学生時代剣道部のキャプテンとして、医歯薬大会その他の大会に常に優秀なる成績を挙げその容姿は、今思ひ出しても男性女性憧れの的であつたと思ひます。何時もニコニコして同窓の面倒をみていた事が夢のように去来します。今、奥様よりの便りを記してみます。

八月十七日に桑病入院(胆石)、九月十六日に手術を致しましたが一週間目に腹膜炎を起し、前後三回手術を致しましたが、その甲斐もなく、とうとう十月十六日に他界致しました。長い間、お世話になりまして有難うございました。以上の通りですが、渋谷君には戦前台湾総督府経営海南島博愛

会病院歯科に勤務、南支方面に赴き、終戦にて現地開業の由、苦勞多き一生であつたと推察されま

す。奥様に慰めの手紙を書いて頂けたらと存じます。住所は熊本県下益城郡城南町隈庄

渋谷 ミドリ

孝一

裕子

由美子

高二年の間に山本弥一、加賀潔、重久正二君がなくなり、又渋谷君と四君も亡くなりました。残っている会員は身体に氣をつけて亡くなられた諸君の冥福を祈つて下さい。

昭和43・12・8

七星会 夫馬 嘉男

昭伍会

昭和十三年卒

さて四十二年秋の北海道旅行の際、クラス会で決定した飯坂温泉及び吾妻スカイライン巡遊旅行を七月二十二、二十三日と一泊二日の行程で挙行政致しました。御承知の通り福島には佐藤君、栗原君、猪狩君、山辺君、宇間君の五人の

諸兄が頑張っておられます。北海道旅行から一年目の再会でお互いの健康を祝福しつつ例によって話はずきる事なく、そぞろ年月の流れをしみじみと感じた次第だが中には松田、穂積、両兄の如くスタミナ保有者もあり、北海道の岡野君の如きはその頭髪の若々しさは一同を特にうらやましがらせた。

一夜明けて心配していた台風も無事通過して秋晴の良い天気で、スカイラインドライブを恙なく終り福島駅頭で再会を約し解散夫々帰途についた次第で有ります。稿を終るに当り、穴原温泉でのクラス会の当夜通人の小山君がお嬢さんの舞踊で我々の旅情を慰めて下さったことと地元の諸兄の御芳志のお陰で愉快に過す事が出来たことを深く感謝致します。又、亀山君からも出席出来ないおわびにと金一封の寄贈をお受け致しました。心から御礼申し上げます。

四十四年五月三、四、五日二泊四日の行程で卒業三十五周年記念として九州旅行を予定して居ります。いづれあらためて御通知致します。全員参加を願って居ります。

当日出席者(順不同)
葉師寺夫妻、武藤夫妻、及川夫妻、堀内夫妻、松田、穂積、永田、渋谷、佐藤、猪狩、栗原、(次頁につづく)

堀江会
前号の堀江鍾一先生喜寿祝賀旅行の模様です(編集部)



前号の堀江鍾一先生喜寿祝賀旅行の模様です(編集部)

堀江会

切望しておりました。台湾の歯科医学の教育機関は台北に二校、台中に一校、高雄(台南)に一校と計四つの歯科大学があり、そして歯科教育にたずさわっている同窓は台北に黄混生、張春輝、台中に呉仁祐、高雄に呂清寬の各先生が教授として活躍していることはまことにたのしい次第である。

台湾の歯科事情は日本よりも遅れたおり、その遅れをとりもどそうと懸命であり、それについてできることなら、われわれの手を力をお互にさしのべてやるのが必要であり、同窓との連帯感を更に深めるものであると痛感している。最後に台湾同窓皆様の温いご好意に感謝するとともに益々発展させますことを祈る次第である。

海外の同窓より(その二)

〔沖繩〕

柴田米三君

大正十年卒

うお願い致します。

昭和四十三年十二月一日

柴田米三

(前文略) 永年の自治功勞と保健衛生に尽力した功により、勲五等瑞宝章を拝授致しました。この事に関しわが親愛なる同窓会より記念品と祝辞を賜わり深かく感謝致しております。何卒同窓会報を通じて、会員各位に衷心より感謝の意を表明しているとお伝え下さるよ

福島秀策同窓会長殿

お便りによれば柴田先生は、在学中は剣道部、弁論部、野球部等で大活躍をされ、沖繩においては、多年にわたり実に多くの重要な公職につかれ沖繩の政治、社会福祉に多大の貢献をされ、現在益々活躍のことである。

クラス会だより



岡野、田能村、上野、藤本、藤林、樋口、荒井、小山、牟田、富永、池田、大津

仁蜂会

昭和十五年卒

四十三年十一月九日午後六時
新宿駅西口「今佐」にてクラス
総会開かる。出席者二十六名。

秋山、堤、江里口、吉枝、加藤、岡、田口、山下、佐藤俊一、小野寺、青木、武井、愛知、石井、渡辺、浅野、岡村、森、吉井、柏村、

佐々木、高田、平田、岩崎の諸君
名幹事の森、高田両君に代って
吉井、佐藤俊郎両君出馬、田口君
と小生留任。

卒業三十周年を明後年に控え、
来年は、五月ゴルフデンウイーク
に岐阜と決定、岩崎、松山、永田、
村山四君に世話を願う事になる。

秋山君デザインの浴衣の図柄が
決まり、「仁蜂会音頭」の作詩、
作曲、振付けなど色々意見輩出
したが決局、出席しない会員の意
見もアンケートで求めることにな
った。提案では、母校八十周年記
念の催え入って「仁蜂会音頭」を
揃いの浴衣、手拭で踊ろうとの
事。いづれ詳細は各自へ通知され
るが、大いに御協力あれ。

ゴルフコンペは第一回赤城国際
カントリーで8人、第二回新潟新
津カントリーで8人、第三回は、
十月二十四日富士宮カントリーで
平田君の尽力で開かれ集るもの
各、坪田、佐藤俊一、高田、岡、
小鹿、佐藤俊郎、山田、森、平田

第一位 平田、第二位 坪田、
第三位 山田君の成績
五月のクラス総会は多分山田君の
御世話で第四回の予定、目下ゴル
フ人口は会員中十九名です。
そろそろ会誌発行の準備中です

が、原稿依頼を覚悟しておいて下
さい。関西勢はときおりボーリン
グ会などいたして、益々盛んな所
を見せておりますが、今度の岐阜
には皆元気な顔を見せて頂き度
いものです。



最後に昨年の新潟、佐渡旅行に
はすっかり佐藤寛夫妻のお世話に
なり忘れ難いクラス旅行の一駒で
した。厚く御礼申し上げます。(堤)

一志会

昭和十七年卒

去る四十三年十一月九日、十日
静岡県同級生諸君の献身的御努力
により、熱海富士屋ホテルにおい



て一志会総会が開かれた。

北は北海道の吉田良収君夫妻を
はじめ南は田中嘉実君など同伴者
を含め五十四名が、秋空晴れた熱
海へ集合した。

ホテル正面には静岡県準備委員
の諸君が懐しい顔を揃え我々を出
迎えてくれた。

渡辺(富)君が校用のため欠席し
たので、ベルアンデス遠征の話
が中止となり、入浴後、会議室で
総会を繰上げて行った。

定刻、地元諸兄の心づくしの宴
に入り、旧交を温め、一夜を楽し
く過した。

翌日は観光バスで伊東大室高原
に向い、そこから伊豆箱根スカイ
ラインに入り快適なドライブを楽
しんだ。当日はかなりの強風であ
ったが、富士山と大島とを同時に
望むことができたほどの晴天で、
地元諸兄も、このような日は年に
数日しかないというほどの好運に
恵まれた。

心に残る楽しい計画を立てて下
さった静岡県同級各位には心から
感謝いたしますと共に御主人と共
に御接待、御世話下さった地元の
奥様方に厚く御礼申し上げます。
尚、詳細は一志会だよりをたの
しみに。

四十四年度よりクラス会費は千
五百円になりました。この詳細も
一志会だよりをご覧下さい。
(長谷川記)

十六会

昭和十九年卒

級友諸兄御元気で、昨年改
選期にあたり岐阜の総会で、はか
らずも幹事に任命を受けた我々飯
田、金沢、坂本、城所、中原、佐
貫の六名の任務は本年がさしあた
り卒業廿五周年を迎えることか
ら、如何にするか、四十四年度北
海道旅行、四十五年度万博の開催

クラス会だより

期の大坂旅行と、岐阜の総会で決められた直後のことだけに当初頭を痛めたが、つまるところは誠意を以て日本国中に散在せる一七〇

余の級友が出来るだけ多く参集して久瀾を叙しあうことを目標に微力を尽くそうということに一致団結致しました。御挨拶が遅れましたが、引継いだ後の行事を報告すると同時に、今後各自が幹事になつたつもりで十六会和合発展をめざして御協力を御願ひします。

(1) 十六会東京会
東京、関東地方近県のクラスメートの集いたる東京会研究会が十月八日(火)午後七時から松風陶術ホールで開催された。ビールを飲み交しながら岐阜の総会の模様を8ミリで観賞後、級友宇梶君により、合理的な歯科診療は如何にあるべきかに就て、最近の彼の研究成果を基とした含蓄ある講演を沢山のスライドにより聞き、大いに裨益する所であった。次で、今後の十六会の運営に就き懇談形式で種々協議をし、最近にない盛り上つた雰囲気の中で貴重な意見が沢山出て、お陰で散会も十一時頃になつた程でした。出席者名、福本、菊地、本山、小沢、宇梶、田村、坂、村田、鈴木、生田、坂

本、城所、飯田、佐藤、児玉嘉(順不同敬称略)その時の取り極めの主なものは、

(一) 十六会則は従来必要なしとしできたが幹事改選の都度困惑することがない様今度の幹事団で規約を一応作ってみること。

(二) 東京会としての会費は別になつたが今後は通信費等の負担金として出席者に於て五百円を当日会費に加えて抛金しようということ。

(2) 十六会懇親会
十一月九日(土)神楽坂一平荘に於て午後六時半から開催され総会が既に終つていたので、どうかと思われたが、出席通知なしで参加する級友も現われ大変盛会、北海道で手ぐすねひいてる沢田君よりの心情溢れる手紙を披露するに及び来年の廿五周年には大いに祝ひあうと謳歌飛び出し初めて出席した太田啓次(長野)君を初め、久々に顔を出した数君等岐阜では会えなかつた面々で感激の再現、別れを惜しみつつ、来年の北海道を合言葉に午後九時半散会した。尚当夜かねて全級友にこの懇親会通知に併せて御願ひしたアンケートの結果を会場で発表したが、返事が百通、後の七十はとうとう来

ません。今後の御協力を切にお願ひします。

昭和四四年度、北海道で總會。参加 四十名、予定 六名、不参加 三四名、

昭和四五年度、大阪万博で總會。参加 六一名、予定 三名、不参加 三二名、

昭和四四年度、昭和四五年度共東京或はその近郊で總會。

参加 四四名、不参加 五四名、懇親会出席者名、小宮山、太田、石塚、小堀、前川、増村、杉江、河合、中村(実)、岡田、篠原、中原、鹿野(悦)、本山、山根、鈴木(貞夫)本間、坂、村田、小沢、児玉(正)、田村、佐藤、市川、飯田

廿五名(順不同敬称略)

差当り此の報告を北海道幹事代表沢田君に致したところ、同君には徳々連絡の為、一月廿五日に空路上京され、我々と種々打ち合せられ、道在住の水野、原岡、神保、米沢、和田、池田、三谷の七兄が久々に皆に逢える嬉しさと熱意とで受入態勢完了とか、全く十六会万歳不参加とアンケートに答えられた方も万障繰り合せて北海道に行つてみませんか。

大阪の方々四十五年度には御世話御願ひしますが、今から計画を練つて下さい。片山君が代表になつて居られます。どうぞ宜敷く!!

神野都夫君(川崎市)を悼む
昭和四三年八月廿六日肝硬変に

て逝去されました。会には卒業以来出られなかつた様ですが、地元、大川君の通報を受け、同道帯問して香華を捧げて参りました。家も新築され大変盛業であられた由、心から御冥福を祈ります。当夜の大豪雨であつたことが思い起されます。

52 期 会

昭和二十二年

卒本年度クラス会は南九州に決定。九州在住の同級生一同、大張切で計画しています。十一月十一日には熊本の新原君、打合せのため、はるばる上京、多数諸兄、家族連れでの参加をお待ちしております。期間は8月21日より24日、南九州青島、指宿海岸の海水浴も含まれているとのこと精細な各人宛通知します。

いよいよ後継が大学入学の年頃になり、病気のクラスメイトもそろそろ出ているようですが、健康第一にしての諸兄の活躍を祈つてやみません。

(二月十一日 山崎記)

いそむ会

昭和二十六年卒

いそむ会のみなさんには、益々ご繁栄のことと存じ上げます。



昭和四十三年度總會は、予定通り過ぐる十一月九日(土)、浅草吉原の老舗「松葉屋」において、還曆を迎えられた関根永滋先生ならびに先生の奥様をお招きして、江戸の昔を偲びながら、盛會裡に終了することができました。これは、一重に会員諸兄姉の絶大な御支援の賜と深く感謝しております

クラス会だより

当日、満面微笑をたえられた関根先生ご夫妻には、記念品として、純金ならびに純銀の杯を差し上げ、ささやかな還暦に対するクラス会のお祝いとした次第です。

この会を計画された幹事の岡駒雄、中野年朗、塚田隆ならびに森野俊雄の四氏に心からお礼を申し上げたいと思います。

松葉屋の舞台で、おいらんから煙草(長いキセル)を買ってニコッ

りされた関根先生、その姿を楽しくそうにご覧なる奥様という図には、如何にもほほえましく、金杯、銀杯をくみかわしながら、何時までも先生ご夫妻には幸福であられるようにお祈りしたのは、クラス会全員の気持であったと思います。

改めて、関根先生ご夫妻のご多幸とご健康を深く祈念する次第でございます。

さて、来年度の幹事は、総会にて貝塚雅信、真砂義昌、楨田正己ならびに武井範彦の四氏と決定し、次期開催地は東北地方の十和田湖方面で、波多野祥二、成田文治、北村昭生氏らが面倒をみて下さるそうで、時期その他については一任してございます。

今回の出席者は、佐藤、斎藤、

武田、橋本、成田、波多野、鈴木、大川、松崎、青木、武石、青木、熱田、浦井、横瀬、小熊、大森、岡、貝塚、佐藤、斎藤、坂本、田辺、武井、武部、中野、真砂、楨田、山田、塚田、高山、小峯、水島、山下、久和、金指、天野、渋谷、布施、宮尾、山崎、安原、角倉、内田、山中、黒須、原、近藤、瓜山、中川、五十嵐の計51名でした。

なお、今回は出席を予定されながら、熊本市の学校歯科医大会開催と重なったために、止むを得ず欠席された方が十数名おられたことは誠に残念でした。また次の機会には是非ともお顔を見せて戴きたく存じ上げる次第でございます。(鈴木和男記)

六 喜 会

昭和三十三年卒

卒業十周年を迎えた六喜会は、昨年九月二十一日、三十二日の両日、学生時代、私共の副主任であった中久喜教授を招き、晴天に恵まれた犬山の犬山ホテルで盛大に開催されました。午後四時半頃から続々と集り、一昔の若き時代を中心に話が、はずみ、総会、そ



して宴会に移りました。

地方民謡のど自慢、そして地方民謡の踊りなどが披露され宴会に一層の色を添え、再会を約して解散しました。

なお当日、中久喜先生より私共には十年昔の私達の若き顔写真でして、出席者一同、大喜び、なつか

しい人の顔、やはり、今とはずい分違う顔だった様子、皆、くいいる様に見入って話が、つきないようでした。

最後に、本総会のために六ヶ月余りにわたって種々と御世話願った矢頭、柳沢、寺本三氏に心から感謝致します。

本年は、関東近県で行う予定でありますので前回にも増して御出席下さる様御願致します。

志 学 会

昭和四十二年卒

昨年十一月三十日(土)、夜、横浜中華街の華正楼にて、第二回目の志学会総会を開きました。参加者は今回少なく二十二人でしたが盛会のうちに終わりました。特に、飯島、小野、鈴木の三君が北海道からもどり、出席して、北海道在住者の状況を知りました。又妻帯者で子持であるただ一人の参加者三宅君(旧姓、氏原)より子供を持った責任感についての発言は参加者全員の心を打ちました。

今回、参加者が少なかったことは、場所が横浜であったり、時間的に学会と重なり、又、個人的に新婚者が多いといった理由があ



げられました。なお参加の出欠席の返事が少なく幹事一同苦勞しました。第三回の総会は六月頃を予定していますので今から心がけておいて下さい。(幹事記)

参加者は、赤穂、羽田野、桐原、飯島、市川隆、池田、中島、中川勝、小野、大岡、増田、水上、宮川、村居、関根英、興津、田辺、矢郷、高木、鈴木、葉師寺、三宅

次号原稿締切りは

三月十五日

発行所 東京都千代田区三崎町二丁目九番十八号

電話 東京(二六)三 四二一(代)会

編集兼発行人 波 辺 富 士 夫